

平成30年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- (1) 自己肯定感を高める指導により、高い志を育む。
- (2) 工夫された授業などにより、主体的に学ぶ意欲を高め、質の高い学力を育む。
- (3) 学校生活を通じて自律性や社会性を培い、責任を持って行動する生徒を育てる。
- (4) 高い志の実現に向けた進路目標を明確にさせ、自ら切り拓く能力を育てる。
- (5) スーパーサイエンスハイスクール事業を活用し、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育目標 経営方針	<p>学校教育目標等に根差した教育活動が行われていると肯定的に回答した教員の割合は約9割で昨年とほぼ同じであった。今年度は学校評価を活用するため、その方法を改善したが、課題の共有化や解決に向けた具体的な方策の明示など、十分な活用までには至らなかった。</p>	<p>「目標とする生徒像」及び「めざす学校像」等について、目標に沿った教育活動が行われていると肯定的に捉える回答が多く見られ、高い評価が得られた。特に、幅広い視点に立って取り組んでいる探究活動に高評価をいただいた。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○「重点目標」に沿った指導上の重点事項の実施状況が検証できるよう、評価の観点をより明確化する。 ○目標設定から実施計画の作成についても見直しを図るなど、PDCAサイクルのチェック体制を機能させ、学校評価を活用することにより、職員間の課題の共有化と課題の解決に向けた具体的な方策が明示できるよう一層の改善に努める。 ○学校課題を踏まえた実効的な校内研修テーマを設定し、組織的に解決を図るための研修を計画的に実施する。また、教員一人一人が経験年数や校内での役割（立場）等に応じた自己課題に基づく研修を促す。 	
学習指導	<p>自己評価アンケートにおいて、公開授業等を活用した教員相互の授業評価や観点別評価などの項目において評価が低くなっている。教員個々の指導から教科での指導の統一を図り、全校的に課題を共有しながら計画的に指導にあたっていく。</p>	<p>肯定的な回答が多く見られた。進路目標を早期に意識させ、添削等のきめ細かな指導がなされているとの意見があった。一方で、エアコン設置など、学習環境の改善や校外活動の充実を求める意見や生徒に時間的なゆとりがあってもいいのではないかという意見も見られた。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○平成33年度からの間口減や34年度からの新学習指導要領を見据え、平成32年度入学生の教育課程を早期に編成する。 ○シラバスを効果的に活用するために、生徒への提示方法を工夫する。 ○生徒に、主体的、対話的な学習に取り組みさせるため、アクティブ・ラーニング型授業の実践を行うなどの授業改善を図る。 ○授業改善に向けた教員個々の実践を教科間で共有するとともに、学習評価に関する研修を計画的に実施して、指導力向上を図ることで生徒の成長につなげていく。 	

進路指導	<p>いずれの項目も肯定的な回答が8割程度であり、キャリア教育全般に良しとする評価であった。その一方で、生徒の学習状況の把握や模擬試験等の結果分析などが学年主導で行われ、結果的に教員への情報提供が充分でないとの意見もあった。</p>	<p>肯定的な意見が多く、高い評価を得ている。一方で、地域と連携した校外活動の充実など、生徒が多様な視点で進路を考える機会を増やして欲しいという意見もあった。また、現1年生からはじまる大学共通テストについて、保護者から最新の情報提供を求める声が多く聞かれた。</p>
改善方策	<p>○進路シラバスの改善を継続し、将来を見通したキャリア形成の実現を目指す。 ○キャリア教育に関するウェブページの充実を図り、生徒のみならず保護者も交えた進路意識の涵養を図る。地域の人材を活用したキャリア教育の充実など、地域との連携強化に向けて検討を進める。 ○生徒の学習状況や模擬試験等の分析を進め、課題を明確化しながら改善に努めていく。</p>	
生徒指導	<p>ほぼすべての項目で肯定的な意見が多く、評価も高い。ネットトラブル等に対する定期的な指導やネット依存症に対する取組、いじめの早期発見への取組についてもライフサポートグループや学年団を中心に、適切に行うことができたと考える。</p>	<p>学校評価アンケートでは、9割以上の方が肯定的な回答をしており、評価が高い。生徒の明るく礼儀正しい態度に感心する声が聞かれるなど、良好と考えている。今後も、指導を継続していきたい。</p>
改善方策	<p>○ネットトラブルの防止については、入学後の早い時期（宿泊研修等）に全体指導を行うとともに、定期的なネットパトロールにより、書き込み等のあった当該生徒へ指導することで事故防止に努めている。ネット依存については、実態を把握するなど、改善に向けた取組を早期に実施する。 ○いじめアンケートの活用や、学級担任による日常的な面談指導を通じた取組を継続する。</p>	
健康安全	<p>多様化する生徒へのきめ細やかな対応について、ライフサポートグループ生徒支援チームと学年団が、スクールカウンセラー、専門機関との密な連携を図り、個別に対応する支援計画を作成するなど、きめ細やかな支援体制を確立して実践することができた。災害等に関する危機管理については、9月の地震後、全校的なメール配信システムを導入し、生徒・家庭との確実な連絡手段の確保に努めた。</p>	<p>9月の地震を踏まえ、保護者から連絡体制の在り方について様々なご意見をいただいた。メール配信システム導入後は、連絡体制が確立され、冬期間の公共交通機関の遅れ等にも活用されている。</p>
改善方策	<p>○多様化する生徒への支援について、現在の組織体制を維持するとともに、担当者だけでなく、幅広く教職員の協力を促す。 ○生命の尊重や健康安全に対する意識を高めるための指導を継続するとともに、実効性のある避難訓練の実施など危機管理意識が向上できる取組を引き続き推進する。 ○自転車や歩行者マナー等に関する指導について、警察等とも連携するとともに日常的な啓発を行う。</p>	

理数教育	<p>S S H事業について「学校全体として事業内容を共有できたか」については73.0%の教員が、「普通科へ事業を広めることができたか」については86.5%の教員が肯定的な回答をしている。また、「理数科の活動を深めることができたか」については、94.6%が肯定的な回答をしている。今後も事業内容について、全体で共有化を図りながら事業の発展に繋げていく。</p>	<p>学校評価アンケートでは、保護者・学校評議員の合わせて96.3%の方が高い評価をしている。S S H成果報告会における報告者の態度だけでなく、聞く生徒の態度も立派であると高い評価を得ている。報告内容も年々深化していることから、S S H事業について積極的に情報発信を行うなど、中学生や地域の方々への周知と理解に繋げていく。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ S S H事業について、ウェブページでの情報発信に努めるとともに、課題研究発表会やS S H講演会等を地域へ公開する。 ○ S S H事業が全校的な取組となるよう、マネジメントグループの企画・研究チーム内の業務内容の分担について改善する。 ○ S S H事業の探究活動を推進するために、教職員の役割を見直す。 ○ S S H事業を通して育成する力について、達成度を評価する方法を検討する。 ○ 次年度の三期目申請に向けて、計画的に準備を進めていく。 	
開かれた学校づくり	<p>オープンスクールや中学校への学校訪問等を活用して本校の教育活動の周知と理解の深化に努めた。アンケート結果では、多くの教員が肯定的な回答をしている。その一方で、本校を志望しながら受検を辞退する中学生も多いことから、本校の特色について改めて周知と理解を図るとともに、入学者選抜の在り方についても検証する。</p>	<p>学校評価アンケートにおいては、全体的に評価は高いが、学校と保護者との連絡体制や地域との連携など、改善を望む声が聞かれた。保護者とのコミュニケーションを大切にしながらP T A活動の一層の充実を図るだけでなく、本校の教育活動の理解を深めるための方策についても検討していく。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウェブページの速やかな更新を継続する。有益な情報が本校ウェブページにあることを保護者に向けてさらに発信していく。 ○ P T Aとの連携を密にし、地域と連携した教育活動の充実について検討する。 ○ オープンスクールや中学校への学校訪問の際の説明内容を検証し、本校の教育活動の周知と理解を深めていく。 ○ 入学者選抜（推薦）について検証し、選抜方法の改善を図る。 	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評議員会、P T Aの役員会等での公表及び本校ウェブページでの公開。 	